

メッセージアウトライン コリント人への手紙 第二5:11~17 「だれでもキリストのうちにあるなら」

[11-12]「こういうわけで、私たちは、主を恐れることを知っているのです、人々を説得しようとするのです。私たちのことは、神の御前に明らかです。しかし、あなたがたの良心にも明らかになることが、私の望みです。私たちはまたも自分自身をあなたがたに推薦しようとするものではありません。ただ、私たちのことを誇る機会をあなたがたに与えて、心においてではなく、うわべのことを誇る人たちに答えることができるようにさせたいのです」

私たちはやがてキリストのさばきの座に立ち、それぞれの行いに応じてさばきと報いを受ける(10節)。すべては神の御前に覚えられている。それゆえ私たちはこの主を恐れなければならない。コリント教会はパウロが去ってから、偽教師たちが入り込み、間違ったことを教え混乱させていた。それでパウロはぜひともコリント人たちに正しいことを知っておいてもらいたいと説得しているのである。

[13]「もし私たちが気が狂っているとすれば、それはただ神のためであり、もし正気であるとすれば、それはただあなたがたのためです」

パウロは神に対する熱心さのゆえに、しばしば狂人と思われることがあった。これは何とかして福音をわかってもらいたいとの思いのゆえであった。彼は伝道のため、神のためには熱狂的であったが、教会の兄弟姉妹たちに対しては冷静沈着であることに努めた。彼は神のため、福音のための燃えるような熱心さと教会の徳を立てるための冷静さとを合わせ持った非常にバランスのとれた神の器であった。

[14-15]「というのは、キリストの愛が私たちを取り囲んでいるからです。私たちはこう考えました。ひとりの人がすべての人のために死んだ以上、すべての人が死んだのです。また、キリストがすべての人のために死なれたのは、生きている人々が、もはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためなのです」

パウロの行動の動機はいつも彼に迫ってくるキリストの愛であった。それはキリストが彼のためにいのちを捨ててくださったほどの一方的な愛、神の愛であった。この愛を感じ、愛に迫られた時、彼は人を救うこの愛の福音を宣べ伝えずにはいられなくなったのである。キリストは私たちの罪の身代わりとなって死なれた。それによって私たちは神の前にさばかれ、罰せられて死んだ者と認められた。キリストとともに死んだ者は自分の罪に死んだのであり、復活されたキリストにあって新しい者とされている。そしてキリストが私たちのために死んでくださった以上、もはや私たちは自分自身のために生きるのではなく、キリストのために生きるべきなのである。→ガラテヤ2:20

[16]「ですから、私たちは今後、人間的な標準で人を知ろうとはしません。かつては人間的な標準でキリストを知っていたとしても、今はもうそのような知り方はしません」

「人間的な標準」とはこの世の価値観、人間観のこと。神は正しく公平に人を見、さばくことのできるお方である。それゆえ神を信じる者はそのような人間的標準で人を判断すべきではない。またキリストについての知識もイエス・キリストを信じ、知る前の単なる知識と、信じてからの生きた救い主として個人的に知る知識は違う。[17]「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました」

「キリストのうちにある」とはキリストの十字架によって罪を赦された立場、神の御前における立場を言う。もはや滅びではなく、いのちが、死ではなく復活が約束されている。その人は新しく造られた者であり、その生活の目的も態度も、考え方も判断の基準も、古いものは過ぎ去ってキリストを中心にして新しくされる。これが福音であり、神のすばらしい約束なのである。私たちの罪のために十字架にかかって死なれ、復活された神のひとり子イエス・キリストを自分の救い主と信じ受け入れる時にこの新しい創造が起こる。

クリスチャンはイエス・キリストを信じ、新しく造られた者としてこの地上の人生を喜びと感謝と祈りを持って歩むことができるのである。